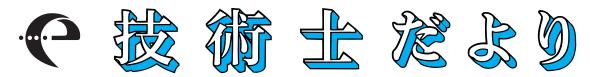
(月刊「技術士」通巻488号 平成19年10月 1 日発行 付録)

この「技術士だより」は、九州支部所属の会員・準会員の方に本誌の付録として送付しております。



(社) 日本技術士会九州支部秋季号 < 第73号 > (平成19年10月15日発行)

巻頭言

『事故・失敗』に学び生かす技術士に

九州支部 副支部長 大橋 義美 (建設、総合技術監理・長崎)



科学技術の発展においては数多くの事故や失敗を経験している。この経験を通して科学技術者は改善に改善を重ね、安全で効率の良い製品を創造してきた。私達技術者は、事故や失敗について学び、これを生かすことにより、社会の安全や技術の発展に寄与することが求められる。しかし、新聞・テレビなどでは相変わらず技術に係わる事故、失敗、隠蔽、倫理面の問題等が報道されており誠に残念である。

ところで、長崎市にある三菱重工業(株)長崎造船所は本年創業150年周を迎える。ここに、一般に公開されている「三菱史料館」があり貴重な技術史料が数多く展示されている。まさしく産業遺産である。

館中央部に巨大な黒い鉄の塊が展示されており、この前に立つと一瞬緊張を覚える。鉄の塊について史料館の説明に「昭和45年(1970)高速回転中の50tの大型タービンローターが破裂するというタービン史上に残る事故を経験した。破裂の起点と疲労破面を含む破片を回収し展示してある。破壊力学上貴重な資料であり材料強度にたずさわる者にとって必見の価値がある。この事故によって日本のローター製造技術は飛躍的に改善された。又、これを契機として引続きスペイン向け35万 KW10台を含む26台のタービンを受注した。当所、大型タービンの輸出はこれよりスタートし、今日の全世界への輸出拡大を招来した。」と記されている。この展示は、経営者により犠牲となられた方への鎮魂と、この種の事故を2度と繰り返してはいけないという技術者への戒めとするためである。このように公開をして、事故の教訓を生かすようにとの強いメッセージであり深い感銘を受ける。事故に学ぶことの重要性を示す良き見本である。

先般、「公共工事と会計検査」に関する本を読んだが、事例の中に技術上の初歩的・基本的なミスが繰り返しあげられている。計画・設計から施工までに多くの技術者が係わっているのに十分なチェック機能が働いてないことや、技術力の低下が指摘されている。技術士は計画・設計・照査、そして指導する立場にもあり業務に当ってはこのようなことが無いように努めることが重要である。例え、小さなミスであっても繰り返せば「ハインリッヒの法則」のように取り返しのつかない大事故になることも懸念される。これを防ぐためには、万が一という気持ちを常に持ち続けると共に、小さなミス・トラブルであっても問題意識をもって注意深く原因を究明して行けば、大きな事故は前兆の段階で未然に防げるものと考える。

8月1日、アメリカにおいて橋梁の崩落事故が発生し多くの尊い人命が失われた。落下した橋の写真を見て強い衝撃を受けた。事故原因は調査の結果待ちではあるが、技術者として施設の維持管理の難しさ重要さ、そして責任の重大さを痛感する。このような事故を対岸の火事とせず教訓とすることが必要である。

最近では、失敗に学び、失敗を生かす技術に関する文献も数多く発刊されているので、これらの文献による自己研鑽と合わせ現物等を参考にした研修を行うと共に、事故、失敗、過ち等について、しっかりと後輩技術者に対し知識の伝達に努めることである。そして、高い専門知識、高度な応用力、技術者としての立派な倫理観や社会人としての自覚を持って職務を遂行し、社会の安全・安心を脅かすような事故や失敗を防止することが出来る信頼される技術士にならなければならない。

本年は、技術士法制定50周年となるが、技術士は、まだ社会の認知度が低いと常々いわれている。このような中、技術士としての品格を持って一人一人が安全・安心の社会構築へ向けた活動、企業内等での指導的な活動をすることにより、その認知度も高まってくるものと考える。このことにより、社会に認められた技術士資格を持つ"プロフェッショナルエンジニア"となれるのではないでしょうか。

これからの50年へ向け、皆『技術士』広報役に



佐賀地区代表幹事 宮副 一之 (建設、総合技術監理・佐賀)

私には、今まで技術士の資格に関する寂しい思い出があります。平成17年6月、佐賀で西日本技術士研究・業績発表年次大会が開催され、新聞記者から取材を受けました。「技術士のことも調べずに取材に来られたのですか?」「よくわかりませんでした」のやり取りの後、発表会のことではなく、『技術士とは』の説明に多くを費やした件。私の娘が中学生のころ、『資格と職業』に関する宿題で親の資格と職業を調査するアンケートがあり、担当の先生が技術士の資格をご存知ではなく、何か親子共にやるせない感を抱いた思い出。他にも同じようなことを経験しました。そのたび毎に技術士資格が浸透していないことを痛感させられたものです。

技術士総合技術監理部門、APEC エンジニア (Civil)を取得していくうちに、諸外国との技術士 に対する評価の違いを痛感するとともに、これでは いけないと悶々とした日々を過ごしていました。

平成19年度から、佐賀地区代表幹事となり、他県の方との交流の中、同じような思いをされていたことを知ると同時に、技術士法制定50周年記念シンポジュームでの全国各地区発表の内容を目にしたとき、何か、殻から脱し得ない思いが充満していることを感じました。

固い殻を打ち破ぶり、これから続々と誕生する技術士の方々に夢と希望が与えられることが出来る、 日本技術士会のあり方について、若輩の私ですが、 以下、提言したいと思います。

第一に、呼び名を『先生』から『技術士』に変えましょう。技術士に合格したときから先生と呼ばれるのに対し、違和感を感じていたのは私だけではないと思います。『〇〇技術士』を連呼することにより、一般の方の技術士の呼び名に触れる機会も増えると思いますし、技術士に合格したのだから、『技術士』と呼ばれるのが自然の形です。

第二に、年会費を定額とし、合格者は全て入会するシステムとするべきです。いままでの二重の会費制度や公務員の方はメリットが無いから安くとかいう議論は、これからを支える技術士の方々には、無用の長物と思われます。全員一丸となった技術士活動が出来るよう会費も他学会とも同程度とし、加入率20%から早く脱した日本技術士会になる必要があると考えます。

第三に、社会に貢献するのが目的ですから、一般 社会の方々に周知されなくてはいけません。そのためには、小・中学の学校教育の中で、技術士の重要 性を掲載していただく中で、子供たちが将来、技術 士を取得し、科学技術の分野で活躍したいと夢描けるような提言を行うことが必要と考えます。

第四に、日本技術士会の存続価値が問われていることは安全性管理の観点からは、非常事態であります。学会や大学との連携や、すみわけを十分に検討し、技術士会の今後の活動方向について明確にすることにより、閉塞感や孤立感を無くして、関連団体との協調を図っていき、会員のモチベーションをあげることが必要不可欠であると考えます。

第五に、以上の提案を実践していく為には、技術 士法制定50年を機に、いままでの総括をし、一度原 点に立ち戻り、総合的な視点から、驕ることなく、 将来の技術士の方々を下支えする姿勢で皆が黒子と なり、一丸となって技術士会の広報にあたることが 必要不可欠と考えます。

私も、まずは地域の子供たちへのアピールを継続的に行い、子供たちの将来なりたい夢の職業の中に、『技術士を取得して科学技術の分野で活躍したい』が挙がり、目を輝かせて夢を語る子供たちと出会う日を楽しみに、『技術士』広報として技術士会活動を続けていきたいとと夢膨らんでいます。

本部近況 (理事会等報告)

(出)日本技術士会 理事・九州支部副支部長是永 逸牛 (機械、総合技術監理・北九州)



前号では1月に開催された平成18年第5回理事会までを報告しました。本号では3月に開催された平成18年度第6回理事会と同日に開催された臨時総会、平成19年5月に開催された平成19年度第1回理事会、6月に開催された第49回定時総会と同日開催された平成19年度臨時理事会、さらに7月に開催された平成19年度第2回理事会の概要を報告します。

報告 1 平成18年度第 6 回理事会

(開催日:平成19年3月15日)

第6回理事会は3月15日に開催されましたが、すでに議事録は九州支部ホームページおよび、月刊「技術士」5月号にも掲載されています。また継続検討事項は5月度理事会でも審議されていますので、重複しないように報告いたします。

《審議事項》

- 1.「科学技術基本計画支援実行委員会」の設置 第3期科学技術基本計画支援のための組織を設 置することが了承された。
- 2. 「国際特別委員会の継続」 2年毎の更新が必要であり、平成21年3月まで の設置と委員の委嘱が了承された。
- 3. 本会シンボルマークは5月の理事会に付議される。
- 4. 常設委員会と実行委員会の所掌事項の規定化と 連携強化

現状の所掌事項を整理して全体調整を行い常設 委員会と実行委員会の連携強化を規定化した。 常設委員会:

倫理委、政策委、財務委、事業委、広報委、 業務委、報酬委

実行委員会:

政策委員会 青年技術士交流

業務委員会業務斡旋、海外業務促進

事業委員会 生涯教育推進、修習技術者支援、 中小企業交流、日韓技術士会議、 防災支援

《報告事項》

1. 技術士法制定50周年記念総括シンポジウム開催

日 時:H19年7月31日 10:00~17:00

於:虎ノ門パストラル

テーマ:技術士について考える

一過去•現在•将来一

2. 部門・部会のあり方について

最終案として、部門・部会とも現状維持が妥当 との結論に対して問題点の提示等外部報告用とし て整理した上で次回理事会へ提案。

- 3. 代議員制に関わる意見聴取結果 代議員制度の概要に賛同だが、具体的な選挙方 法・選挙区割りには各案とも問題あり。
- 4. 地域組織のあり方については関東甲信地区を先行させる。

報告 2 平成18年度(社)日本技術士会臨時総会

(開催日:平成19年3月15日)

会員総数:11826名、出席者:142名、委任状:6560名 第1号議案:H18年度特別会計収支予算科目更正 第2号議案:H19年度事業計画及び収支予算 特別のトラブルもなく終了。

報告3 平成19年度第1回理事会

(開催日:平成19年5月10日)

《審議事項》

1. 平成18年度事業報告、収支決算 H18年度の技術士会事業活動の主なトピックス は下記である。

①第3期科学技術基本計画を支援するための事業、②技術士ビジョン21の推進、③技術士プロ

フェッション宣言、④第33回(創立55周年)技術 士全国大会、⑤技術士法制定50周年記念事業、⑥ 「情報システムに係る政府調達の基本指針(案) に対する技術士活用の要望、⑦ CPD 活動の推進、 ⑧日本技術士会の新たなシンボルマーク(ロゴ) の制定。

事業報告は一般事業で日本技術士会が取り組んだ内容に加えて部会や支部の活動を詳細にまとめた。

- 専務理事および常務理事の選任(総会に提案) 専務理事;竹下功、常務理事;大谷邦博、西村 文夫(新任)を選任、 畠山常務は引退。
- 3. 第49回定時総会の開催日時・議題等

日時:平成19年6月22日(金)14:00~15:45 於:虎ノ門パストラル

議題:H18年度事業報告、収支決算報告、専務・ 常務選任、役員選挙結果報告、会長表彰

- 4. 平成19年度新名誉会員、
- 5. 平成19年度会長表彰者

新名誉会員:16名

会長表彰 1 号《35年以上》:12名;山村勝美(九州支部/経営工学)

会長表彰 2 号《10年以上》:61名;光岡毅、日下 部岩正、宮田守次、吉竹正致

6. 「技術士倫理要綱」の改定、行動指針の制定。 《倫理委員会》

技術士および外部に明確に倫理要綱にするように継続審議とする。

7. シンボルマーク最終(案)

《政策委員会》

色は青を基本とする。白黒を基本とした商標登録をして色の組み合わせに自由度を持たせる。

8. 委員会に関わる細則変更及び運営に関わる規則の制定、所掌事項の見直し。

《政策委員会》

各種委員会の細則を現状に合致するように修正 した。詳細は理事会資料参照

9. 科学技術基本計画支援実行委員会委員を支部部会からの推薦により12名を委嘱。4支部から推薦10. 「会員拡大・技術士活性化推進特別委員会」の継続

《同特別委員会》

今までの活動内容を報告書にして次の委員会に 申し次を行う。 11. 日韓技術士会議実行委員会の運営の特例に関わる規則の制定

《事業委員会》

日韓両国の関連、36年間の歴史があり実行委員会委員の任期延長の特例を定める。

12. 部門・部会のあり方について(最終報告)(案) について

《特別委員会》

検討結果を67ページの報告書にまとめており、 文科省に概要を提出する。

13.「プロジェクトチーム設定・運営規則」を変更《業務委員会》

日本技術士会の承認するプロジェクトチームの 設置、運営、解散などの基本事項を規則で定めた。 チーム構成員数、非会員の制約等を新条文で成 文化しており、届出書類の様式も明確化した。

14. 著作物に「社団法人日本技術士会」の名称を使用する規則の変更

《業務委員会》

名称使用の原則を改めて見直し成文化した。

15. 平成19年度技術士業務報酬の手引き

《報酬委員会》

今年度も「技術士業務報酬の手引きを制定、鑑定業務の文書料、出廷料を変更 《詳細資料有》

16. 定款第10条による退会者 会員63名、準会員 B128名 《報告事項》

1. 本会の今後の事業の方向性について

《政策委員会》

社会や組織から技術士会を視る時、本会が技術士法に定める事項を確実に提供し、技術士が《技術士プロフェッション宣言》に相応しいプロフェショナルエンジニアであることを保証し、本会の事業が内外に見えるようにすることが肝要である。本報告書は本会の今後の事業についてその方向性を明らかにする為にまとめたものであり、12ページに亘って「検討の拝啓と方向」「基本的な事業について」「組織の方向性について」「定款について」「財務基盤について」の項目を纏めている。

2. 代議員制度について

《政策委員会》

「代議員制度の概要」としてまとめた。公益法 人制度改革とあわせ、政令・省令等の規定化の進 捗と合わせて代議員制度導入の可否を最終的に判 断することになった。

3. 地域組織のあり方について

《政策委員会》

県単位組織を適正に構造化し、日本技術士会として一体となった組織化を図っていくのが基本的な方向であり、地域組織のあり方を10ページに亘ってまとめている。基本的に関東甲信地域の検討を先行させ、支部管轄下にある県単位組織は別途検討する。

4. プロジェクトチームの解散

《業務委員会》

「南九州防災・環境センター」責任者(新屋敷和明先生)は3月31日付けで解散。

5. 常設委員会報告

(倫理委員会):「技術士倫理問題ホットライン体制」を試行段階としてスタートす

(事業委員会):技術士法制定50周年記念事業「総括シンポジウム」を実施する。(別

途案内済み)

技術士 CPD ガイドブック(第 5 版改定案)

(業務委員会):技術士活用促進策実施計画書(10ページ)を取りまとめ次に引き継ぐ。

5. 会員·準会員の推移(H19年3月)

会員:11,920名 準会員B:3,356名 (入会76名、退会88名)

報告 4 (社)日本技術士会第49回定時総会

(開催日時:平成19年6月22日)

第49回定時総会が6月22日に改選前の執行部の下で開催されましたが、すでに議事録は月刊「技術士」8月号に掲載されていますので、要点のみを記します。

会員総数:12097名、出席者:205名、委任状6724名 第1号議案:平成18年度事業報告及び収支決算並 びに監査報告

第2号議案:専務理事及び常務理事の選任

☆第1号、第2号議案とも異議なく承認可決された。 常務理事は畠山正樹氏退任に伴い、西村文夫氏が 選任された。新陣容:専務理事;竹下功、常務理 事;大谷邦博、西村文夫

☆報告事項;選挙管理委員長から役員選挙結果、厳

正かつ適正に実施されたとの報告あり。

報告 5 平成19年度臨時理事会

(開催日時:平成19年6月22日)

役員選挙結果に基づく第1回目の臨時理事会であ り、平成19年、20年度の新執行部の中枢の選任、指 名が行われた。

(1) 会長(選任):

高橋 修(建設・日本工営㈱社長)

- (2) 副会長(指名):
 - ①吉田克己(電気電子・日本工営㈱執行役員)
 - ②岩熊まき(応用理学・CTI サイエンス副社長)
 - ③北村友博(近畿支部・ピークコンサルティング代表)
- (3) 常設委員会委員長(指名)

倫理:山崎宏(金属)、政策:吉田克己(電気電子)、財務:安田晃(情報)、事業:山口豊(建設)、広報:岩熊まき(応用理学)、業務:北本達治(化学)、報酬:関矢英士(機械)、

報告6 平成19年度第2回理事会

(開催日:平成19年7月12日)

《審議事項》

- 1. 委嘱:新たな顧問に前会長都丸徳治が委嘱、評議員には退任した全役員が委嘱された
- 2. ある部会員の訴訟に関わる弁護士費用の技術士 会負担:省略
- 4. 会員拡大・技術士活性化特別委員会の継続が承認され、9名の委員が委嘱された。

九州支部は光岡支部長退任に伴い長野紘一(建 設)副支部長に委嘱

5. 実行委員会委員の継続再任

事業委員会及び業務委員会が継続の必要を認める日韓技術士会議実行委員会、業務斡旋実行委員 会の委員の継続再任を承認した。

再任期間: H19.7~ H21.6

- 6. 常設委員会委員の委嘱(九州支部関係のみ)
- (1) 政策委員会:山口一弘(建設•九州)
- 7. 実行委員会委員の委嘱(九州支部関係のみ)
 - (2) 青年技術士実行委員会:山田信雄(建設)
 - (3) 海外業務促進実行委員会:宮田守次(金属)
 - (4) 業務斡旋実行委員会:大里信義(化学)
 - (5) 防災支援委員会:三浦哲彦(建設)

《報告事項》

1. 7/31開催の「技術士法制定50周年記念総括シン

ポジウム」の概要が報告された

2. 国際特別委員会(畑尾成道委員長)から「国際 資格や国際会議の動向」が報告された

国際資格や国際会議等の国際活動に関して、 APEC, EMF, FEISEAP等で調整中

3. 技術部門のあり方検討委員会

「部門・部会は現状維持」と最終報告が纏められたが、残された検討課題として、

「産業力維持向上に向かう為の基本的方針決定が必要」と指摘している。

4. H19年度第二次試験申込者集計結果と第一次試験申込、JABEE 修了者の状況

H19年度合計 30864名

H18年度合計 31499名 ▲635名

☆H19年度第一次試験申込者数

H19年度合計 34500名

H18年度合計 40689名 ▲6000名

JABEE 修了者 292コース 合計50000名 JABEE 修了者への働きかけ、少子化に対する

5. 会員. 準会員の推移

H19年5月末 会員:12,221名、準会員B:3,227名4,5月推移:入会470名、退会208名

6. 常設委員会報告

対応が必要

理事の任期である2年間の常設委員会活動の取

- り纏め結果が資料として配布された。 総ページ数139ページに活動内容、課題がまと められている。希望者閲覧可
- ①倫理委員会(P1~P40):技術士倫理要綱改定、 行動手引、関係書籍、講演可能性の会員
- ②政策委員会(P41~P79):今後の事業の方向性、 代議員制度、地域組織のあり方、
- ③財務委員会(P80~P83):中期的見通しの共有
- ④事業委員会 (P84~ P91): 所掌事項の明確化、 ビジョン21、CPD 認定会員、55周年
- ⑤広報委員会(P92~P118):原稿予定表、委員会 経緯、関連広報
- ⑥業務委員会(P119~P121):技術士活用促進、 科学技術基本計画支援
- ⑦報酬委員会 (P122~ P123):報酬委員会運営の 手引き
- ⑧防災支援委員会(P124):活動計画
- ⑨会員拡大・技術士活性化推進特別委員会(P125~P139):引き継ぎ書、施策一覧

- お詫び --

理事会報告において、報告 $1 \sim 3$ は前号(72号) 掲載予定で作成されたものですが、編集の手違い で欠落しましたことをお詫びいたします。本号 (73号)に掲載をしております。

技術士会の新体制

光岡 毅 (建設·福岡)

九州支部長 光岡 毅 (建設・福岡)

日本技術士会は2年毎に理事選挙が行われます。 今年はその年でした。日本技術士会は、選ばれた理 事の中から会長副会長が選出され、この役員たちが 事務局を率いて技術士会を運営しています。

日本技術士会は、技術士の仲間の民主的な組織です。

また、技術士は、極端に建設部門が多いことは皆さんご承知のことです。しかし、理事の定員は30名ですが少数部門にも枠を取ってあり、少ない部門の意見を反映することが出来る体制になっています。

今回当選された理事は次のとおりです。

E	氏		<u></u>		支	部•部会	:
齊	藤	有	司	北	海道		
渡	辺	敬	蔵	東	北		
中	Щ	輝	也	北	陸		
渡	邉	好	啓	中	部		
北	村	友	博	近	畿		
近	藤	英	樹	中	• 四国		
是	永	逸	生	九	州		
関	矢	英	士	機	械		

E	氏		7 	支部•部会
中	Ш	直	樹	船舶•海洋/航空
永	田	_	良	電気電子
吉	田	克	己	電気電子
北	本	達	治	化 学
向	Ш	泰	司	繊 維
山	崎		宏	金属
水	野	正	勝	資源工学
井	出		宏	建設
高	木	茂	知	建設
高	橋		修	建設
山			豊	建設
北	Ш	善	久	上下水道
田	中	久	雄	衛生工学
古	西	義	正	農業
믑	III	正	義	森林
新	井	健	次	水産
渋	谷	貞	雄	経営工学
安	田		晃	情報工学
岩	熊	ま	き	応用理学
池	田	友	久	生物工学
春	田	章	博	環境
佐	Ш		渉	原子力放射線

なお、監事は、今回は無投票で安藤正博、伊藤二 朗、君島光夫の3氏に決まりました。

理事会で日本技術士会の執行部として以下の方々 に決まりました。

役 職	氏	名	役 職	氏	名
会 長	高橋	修	専務理事	竹下	功
副会長	吉田	克己	常務理事	西村	文夫
"	北村	友博	"	大谷	邦博
//	岩熊	まき		-	_

また、委員会と九州支部からの委員は以下のとおりです。

常設委員会	九州支部からの委員
倫理委員会	_
政策委員会	山口一弘
財務委員会	_
事業委員会	_
広報委員会	_
業務委員会	_
報酬委員会	_
選挙管理委員会	藤永正弘

実行委員会	九州支部からの委員)委員
青年技術士交流実行委員会	山 田 伸 雄			
中小企業交流実行委員会	_			
日韓技術士会議実行委員会	_			
修習技術者支援実行委員会	_			
生涯教育推進実行委員会	_			
防災支援委員会	三	浦	哲	彦
業務斡旋実行委員会	大	里	信	義
海外業務促進実行委員会	宮	田	守	次

特別委員会	九州支部からの委員
国際特別委員会	_
会員拡大·技術士活性化推 進特別委員会	長 野 絋 一

(社)日本技術士会の平成19、20年度の執行体制上 記のとおりです。

技術士会の運営は、すべて、技術士によって行われており、また、どんな少人数の部門にも理事が選任されています。九州からも是永氏が選任されていることはご案内のとおりです。

また、委員会の要所々々に委員として九州支部から参加して活躍して頂いております。

これらの方々を通じ、技術士各自が日本技術士会の運営に充分関与できます。

技術士にとって、日本技術士会は何か与える、技術士に対し何かしてあげるといったものでなく、技術士が積極的に技術士会を通じ、また、関与して国民、社会に対して何かをするという関係にあると思います。国民、社会に対して科学技術に責任を持ち安全安心を与えてゆくものです。その場が技術士会です。

一人の技術士では何も出来ません、昨今あちこちで技術の分野を巻き込んだ不祥事が多発しています。聞く度に責任を感じます。250万人が技術者として日本の技術を担っています。技術に能力を持ち、倫理観を持った技術士は僅か5万人ですその内1万3千人が日本技術士会の会員です。技術士を社会に影響で来るだけの数をそろえ、社会に対し責任をもち行動をすることです。

技術士は、わが国の産業に参加し、大いに活動して、社会に安全安心を与えるべく努力すべきと思います。

九州支部の新体制

役職	氏	名	部	門
正副支部長	• 委員县	Ę		
支 部 長	光岡	毅	建	設
副支部長	是永	逸生	機械/	総
副支部長	長野	紘一	建	設
副支部長	甲斐	忠義	建	設
副支部長	大橋	義美	建設/	総
総務委員長	中村	勲	建設/	総
試験管理委員長	斉藤	健男	建	設
事業委員長	川原	伸孝	建	設
広報委員長	棚町	修一	建設/	総
業務開発委員長	大里	信義	化学/	総
C P D委員長	伊藤	整一	建設/	総
防災委員長	三浦	哲彦	建設/	総
IT推進委員長	木下	茂廣	建	設
C P D審査委員長	完戸	鷯	農	業
会員拡大委員長	長野	紘一	建	設
WP更新委員長	畠中新	斤二郎	情	報
地区代表	幹事			
福岡代表幹事	深見	一男	建	設
北九州代表幹事	長崎	治夫	電気/	総
佐賀代表幹事	宮副	一之	建設/	総
長崎代表幹事	大橋	義美	建設/	総
熊本代表幹事	加来	雄一	建設/	総
大分代表幹事	冷川	久敏	水産/	総
宮崎代表幹事	出口	近士	建設/	総
鹿児島代表幹事	後藤祐	古一郎	農	業

(社)日本技術士会の新たなシン	ノボルマークの制定について
-----------------	---------------

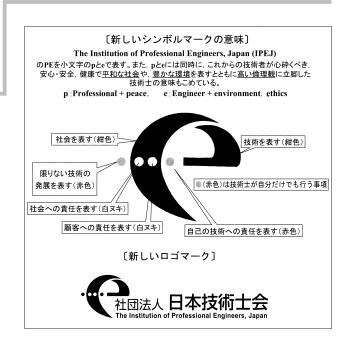
本会の新たなシンボルマークが、平成19年5月13日理事会において以下のとおり決定されましたので、お知らせします。

新シンボルマークの利用

- ・平成20年6月末までを周知期間とし、それまでの間は現行マークとの併用を認め、以降は原則として現行のマークは利用しないものとします。
- カラー版マークや、会員の皆さんが名刺等へ利用される場合の、 原図等は本会ホームページを参照下さい。

(月刊「技術士」2007年6月号より抜粋)

部 会				
	T			
第一部会	黒江	浩	機	械
第二部会	佐竹	芳郎	建設	/総
第三部会	和田	洋二	金	属
第四部会	小宮	信行	水	道
第五部会	吉木	久人	農	業
第六部会	松浦	茂雄	環	境
第七部会	山田	伸雄	建	設
会 計	監事			
会計監事	鶴島有	『之輔	建設	/総
会計監事	石井	輝久	機械	/電
幹事	改訂中)		
本 部	関係	:		
本部関係理事	是永	逸生	機	械
政策委員	山口	一弘	建	設
選挙管理委員	藤永	正弘	建	設
業務斡旋実行委員	大里	信義	化学	/総
青年技術士委員	山田	伸雄	建	設
防災支援委員	三浦	哲彦	建設	/総
海外業務促進委員	宮田	守次	金	属
拡大•技術士活性化推進 特別委員	長野	絋一	建	設



平成19年度第2回九州支部 CPD(A部門)報告



(建設、総合技術監理・福岡)

平成19年7月28日(土)、福岡商工会議所ビルにおいて九州支部主催の標記 CPD が行われた。猛暑の中、85名の参加者が、新任の長野紘一副支部長の開講挨拶に続き、非常に興味深い次の4コマの講演を熱心に聴講した。

- 1. A-4「宇宙環境に耐えるモノづくり」 九州工業大学宇宙環境技術研究センター教授・ 工博、趙孟佑先生
- 2. A-10「技術士の海外業務受託と実施について」 ミヤタハイメック品質技術研究所所長・技術士 (金属)、宮田守次先生
- 3. A-1 「裁判における技術士の役割と立場」 (㈱軟弱地盤研究所理事長・工博、技術士(建 設・総監)、三浦哲彦先生
- 4. A-5 「未来へのシナリオ『ストック型社会』次世代システム研究会の活動状況」(学)九州国際大学次世代システム研究所所長、岡本久人先生

最初の趙先生のご講演は、想像を絶する宇宙空間 環境での長期間メンテナンスフリーの動作を確保し なければならない人工衛星のための諸実験の概要や その研究センターの紹介があった。九州工業大学字 宙環境技術研究センターはそれらの実験が出来る世 界で有数の試験センターであり、そこでは衛星搭載 太陽電池アレイの帯電・放電試験法のISO標準化プ ロジェクトが開始され、趙先生はプロジェクトリー ダーである。趙先生は、宇宙空間はプラズマで満ち ており、衛星の帯電・放電、宇宙ゴミの超高速衝突、 材料劣化等の問題があること、更には今後の課題や 研究の将来についても非常に分かり易いお話であっ た。 続いてのご講演は、海外での指導などご経験 豊富な宮田先生が身をもって体験された経験談を採 りいれながら、海外分けても中国、韓国等近隣諸国 への技術士業務の取り組み方、注意点等について、 詳細なお話を頂いた。宮田先生は(社)日本技術士 会海外業務促進実行委員会のメンバーであり、最近 の海外業務需要の現状と傾向、海外業務の形態と技

術者倫理、海外業務実施のプロセス、受託決定のための情報収集、受託契約のポイントと進め方、現地での技術指導業務の実施、成果等の技術評価の実施など実例を挙げながら詳細に説明された。特に若い技術者にとっては極めて貴重なお話であった。

昼食を挟んで午後からは、三浦先生より裁判における技術士の立場や倫理感について、ご自分のご体験を下にユーモアを交えてお話頂いた。先生のご専門である軟弱地盤に纏わる裁判を例に、鑑定は技術士の社会的役割の一つであるが、裁判において技術士は独自の立場を堅持すること、鑑定人は公正・公平な学識経験者であること、技術士の社会的な信頼度・認知度を高めるためにも鑑定人になることは有度・認知度を高めるためにも鑑定人になることはでのお話があった。それは予め技術者倫理について理解を求めておくこと、極力専門用語を避けていて理解を求めておくこと、極力専門用語を避けていて理解を求めておくこと、極力専門用語を避けていて理解を求めておくこと、極力専門用語を避けていて理解を求めておくこと、極力専門用語を避けする文章を使うこと、鑑定書の論旨は上告審にも耐える内容であることなどである。

CPDの最後には、岡本先生から九州国際大学次世代システム研究所での研究成果について詳しい紹介と詳細な解説を頂いた。現在の日本の社会におけるストックとヨーロッパにおけるそれとの差が著しいこと、日本の近未来ニーズから見た「ストック型社会」への転換の必要性について、ハード面、ソフト面から説明され、政策提言としてもまとめていることなどエネルギッシュな語り口でお話しされた。

以上4コマのご講演どれをとっても貴重で且つバラエティに富んだご講演であり、参加者の CPD 研鑽に大きく寄与したものと考えられる。

支部第3回CPDは、10月27日(土)に予定されている。更に多くの方々の参加を希望するものである。なお、今回のCPDを含め過去数年分の「講演シート」が支部Web上で公開されている。是非参照されたい。

平成19年度 技術士第二次試験・ 福岡試験会場業務終了に伴う報告等

試験管理委員長 齊藤 健男 (建設·福岡)

- (1) 平成19年度の技術士第二次試験・福岡試験会場は、前年度まで使用させていただいた九州大学六本松施設が、九州大学当局より会場として提供できない旨の表意があった。比較的早期な平成18年12月初旬であったのは幸いであった。技術士試験センターより直ちに九州産業大学に試験会場設営を申入れ、12月中に許可をいただき、いささか安堵したところであった。
- (2) 試験監督員及び試験本部の要員については、先ず①受験者数及び②試験会場の使用教室数・収容員数等が検討され、主任監督員及び試験監督員の配置計画が決定される。各試験室の監督員数は、主任及び監督員一人当たりの監督・受験者数の標準値から算出される。
- (3) 平成19年度・福岡(筆記)試験会場の業務状況 1)試験会場;九州産業大学(福岡市)
 - 2) 試験本部設営及び受験者案内標識等の設置 設営・設置日時:8月3日14時00分~16時00分、 体制は次表のとおり。

本部長	総監	本部員	本部補助	計
1	1	4	5	11

3) 試験部門;総合技術監理部門●試験日時: 8 月4日10時00分~12時00分/13時00分~16時00 分●本部・監督体制、勤務時間: 8時00分~17 時00分

本部長	総監	本部員	主任	監督員	本部補助	計
1	1	4	4	7	11	28

4) 試験部門;総合技術監理部門を除く部門●試 験日時:8月5日10時00分~12時30分/13時30 分~17時00分、●本部・監督体制、勤務時間: 8時30分~18時00分

本部長	総監	本部員	主任	監督員	本部補助	計
1	1	4	23+1	49	12	91

※上記表中の主任監督員+1は副主任監督員1名を指す。

5) 受験申込者数及び受験者数の動向を次表に示している。総合技術監理部門では、対前年でやや顕著な減少傾向を示し、総合技術監理部門を除く部門では、前年度から増加傾向を示し始めていたが、更に前年度傾向を助長しているように思われる。技術士第二次試験は、現在進行中

であり試験結果をまちたい。

	部門種別	区分	受験申込者数(1)	受験者数(2)
	総合技術監理部門	全国	4,446 (75.7%)	3,333(75.0%)
		福岡	384(80.5%)	282(73.4%)
	総合技術監理部門を除 く他の全ての部門	全国	26,423(102.0%)	20,774(78.6%)
		福岡	2,573(107.5%)	1,984(77.1%)

※(1):対前年度·比率、※(2):対受験申込者数·比率

- (4) 主任試験監督員及び試験監督員の募集方法については、昨年の技術士だより「平成18年度 試験管理委員会 中間報告」の中で述べているように、技術士試験の度毎に、年次毎の技術士試験の試験監督員への可否をアンケート形式で答えいただき、貴重で有意な資料としてきた。また、「試験監督員を担当してみたい」との申出の方には、担当していただいている。今後は、そういった形を支部の広報活動の中に取込んでいただき、遅くとも次年度から始められるように準備をすすめる予定です。
- (5) 試験管理方法の現況と所見:現行の試験監督体制は、新方式で実施されているが、当支部では支部所属の技術士の方々のご協力をベースに、試験室単位の構成では、従来方式を修正した形で主任試験監督員と最小限1名の技術士の試験監督員を確保し、2名以上の監督員体制の場合には、大学生の試験監督員にて補充・配置した。

今後とも、技術士を中心とした試験監督体制は、 技術試験のレベル維持に重要な作用をもたらすも のと考える。

「技術士試験の管理業務に携わって」

支部試験管理委員会の業務範囲である平成19年度・福岡試験会場の業務は、滞りなく無事に終了した。例年その度ごとに、主に重大な外的事象による試験中止や試験時間の調整等が発生しなかったことと受験者への不具合対応事象や受験者の急患等が発生しなかった安堵感がついであり、次第に施設を提供いただいた大学当局、試験監督業務を担当いただいた技術士の先生方やアルバイトの大学生諸君および施設の清掃や警備を委嘱した企業の方々のご協力に感謝の気持ちが自然に湧いてくるものである。試験本部長をはじめとする関係者の方々もほぼ同様な所感をもたれていることと思う。

業務開発委員会の報告



業務開発委員長 大里 信義 (化学、総合技術監理・北九州)

月次の業務開発委員会の報告については技術士会 九州支部 HP の会員の欄にあるのでそれを参照して いただくことにして今回は業務開拓の方策について 小職の考えを述べる。

九州支部の業務開発委員会は支部正会員が技術士として

①正当な報酬を得られる業務②能力の向上に資する 業務③社会に奉仕できる業務

の3種類の業務を開拓することをミッションとして 活動を行っていることは周知のとおりである。

業務獲得の手段としては技術士会の知名度と信用 を活用して顧客から業務を受け、その業務を受託し て実行するのに最適な会員を探して業務を斡旋する ことを目指している。

技術士会が受ける業務は技術士会本部が受けるものと支部で受けるものに分けられる。

本部で受けるものについてはは業務斡旋実行委員会(国内関係、九州からは大里が委員)と海外業務促進実行委員会(海外関係、九州からは宮田守次先生が委員)が募集斡旋を行っている。国内関係では中小企業基盤整備機構の中小企業助成金書面審査、面接審査、個別企業や公的な機関等からの技術調査や支援依頼(昨年度は全国で67件)などがあり何人かの支部会員に委託した。海外関係では中国や東欧での募集案件があり北九州の技術士の応募などあった。

支部では業務開発委員会のメンバーがそれぞれ担当を持って九州経済産業局、各所の商工会議所、商工会、中小企業基盤整備機構、大学、などに関連する業務開拓を行っている。顧客からの依頼相談業務は支部事務局を通じて担当業務開発委員に行き、担当委員が業務を実施するのに最適な支部会員を募集探索して本人と連絡を取り、依頼するようにするという流れになっている。

今年は特に業務開発委員会の各委員が積極的に顧

客を訪問し技術士会に技術相談を持ちかけるように PR を行っている所である。(支部の HP、技術相談 の項参照)

問題は技術相談の依頼があったときには緊急を要することが多く、業務を実施するのに最適な会員を如何に素早く探し出し交渉して業務を受託してもらうかである。公募してそのなかから選ぶということを試みたがこれは実質的に難しいことが多い。また公募だけでは本当の最適の人材かどうかの判断がだしにくい場合もある。この為にどうしても担当委員の人脈に頼った業務依頼になりがちとなる。人格や実績も含めて担当委員がよく知った人材の中から選ぶほうが確実で安心がもてる為でもある。

以上のような状況から、支部会員のスムーズな業務獲得の対策としては技術士会内での人脈(特に地区代表幹事と地区の会員、各部会長と部会員の間)の幅を広げ密度を増すことが素早く確実に受託最適任者を探すうえできわめて有効と考えている。

従って業務を獲得したいという支部会員は特に

- ① 地域の技術士会の活動に参加する。
- ② 自分の得意分野についての技術講演を行う。
- ③ 技術士会のプロジェクトチームに参加する。
- ④ CPD 等の会合や懇親会で知り合いになる。 等を積極的に行って技術士同志の人脈を広げ連携を 密にしていただきたい。これが九州支部技術士会の 強みにもなってくるのではないだろうか。

もう一つの有効な手段は現在本部で実施している 技術士パーソナルDBへの登録である。現在本部HP の会員欄で募集しているのでできるだけ多くの会員 がこれに登録していただきたい。パーソナルDBに 登録している方の中から適当な方を検索し相談しな がら業務を斡旋することができるようになる。この ことによって業務開発委員と会員との人脈も拡大し ていくものと思われる。

にルルルルルルルルルルルルル 会長表彰おめでとうございます。 *ルルルルルルルルルルルルル*

今年度の会長表彰を5名の方が受賞されました。

山村勝美、光岡 毅、日下部岩正、宮田守次、吉竹正致

行事,会合報告

第一部会活動報告 第一部会研修会

第一部会長 黒江 浩 (機械·福岡)



第1部会では、去る平成19年2月10日、九州支部 会議室で研修会を行なった。

研修会の内容は下記の講演2題で機械、電気部門より各1題づつ行なった。

演題1. 建築紛争における技術士の果たす役割 機械部門 黒江 浩

と題してマンション等の高層建築物に対する周辺住 民の受ける被害について裁判所における原告(住 民)と被告(建築主)の1年有余における生々しい やりとりの実例について説明があった。

建築主と近隣住民の争いは、本来技術的見地から 解決されるべき問題であるが、通常は原告(周辺住 民)にはそれらの知識が無いこと、経済的にもはる かに被告が原告に比べ有利であること等の理由から 被告が自己に有利なように一方的に決定しているこ と、等の実例を交えて説明をされた。

また正義とは力でなく、公平であることの話があり、建築基準法における日照被害、工事中の建物の損傷についても強者の論理で決めたものでなく、一定の技術的判断基準によって決められるものであるべきである、と説明された。

氏が裁判所に提出された日照被害の算出基準、建 物被害の簡易計算法は建築部門の専門家にも是非考 えて欲しい問題であると話された。

また、通常実施されている事前・事後調査についても実態は調査会社は依頼主に報告書を提出しその意向に沿った形で修正されたものが近隣住民に配布されていること、従って表面上被害は発生し得ないこと等が裁判所への提出資料で判明したこと等の説明があった。

また被告(建築主)は自己に都合の悪いことは全て"不知"と回答してくること、その実証責任は原告(近隣住民)にあること、建築に関する文献、書物は無数にあるが、何れも近隣住民に如何に問題を起こさせないかの立場で書かれたものばかりで氏は全て自己の技術で解決したこと、等の話があって弱い立場の近隣住民が安心して交渉できる公平な立場で確立された技術判断基準を作るべきであり、今回の講演会で氏が裁判所に提出した資料をその叩き台として説明したこと、ここに技術士の果たす役割が

あることを強調された。

演題 2 これからの高度情報通信ネットワーク社会 について

電気部門 跡部 康秀

と題して福岡市役所の跡部氏に最近のユビキタスネットワーク社会へとして

- •情報ネットワークの普及・高度化の現状
- ・情報機器の普及・高度化の現状
- ・基盤技術(セキュリティ、認証etc)の高度化の 現状

について講演を頂いた。

現在の日本のIT化の現状と、今後大きく変貌する ITについて理解を深めると共に、技術者としてこれ といかに向かい、対応し、活用すべきかについて、 氏の現在の業務を通じて説明された。

また業務外でのITを駆使した活躍の状況を電気 関係の専門書の執筆活動の状況、海外旅行の予約から現地でのホテルの予約の仕方、等々説明された。

また、ウイルス対策などITに関する様々な質問が 交わされ出席者一同極めて有意義な講演であった。

終了後、有志一同、場所を変えて、懇親会を行った。

講演会でできなかった質問やアドバイスが交わされ、思いもかけない色々な話を聞くことができ有意 義であった。

第三部会研修会報告 "安全と安心"の工学

第三部会長 和田 洋二 (金属・北九州)



"安全と安心"について、このところ産業界での 関心もことのほか高まってきているように思われる。 製造業に関与する企業人にとっては、"安全確保"は 宿年の重要課題であることはおそらく間違いのない ところで、現場で働くものにとって共有いただける 課題だと考えられる。

私事ですが、最近、私が勤める会社でも経営トップ方針に新たな動きがあり、安全・環境部門担当の部長を執行役員とし、企業として安全第一を実現する決意を表明しました。

さて"安全工学"あるいは"失敗学"なる科学・技術分野が2000年以降新たに提唱されていることはご存知のとおりで、中でも"安全工学"について、

村上陽一郎氏の「安全と安心の科学」(集英社新書、2005年)における記述を紹介したい。

「安全-危険」の軸と、「安心-不安」の軸と「満足-不足」という軸を、総合的に眺めて、問題の解決を図ろうとする試みが、氏が提唱する「安全学」とのこと。「安全-危険」の枠組みでしなければならないことはたくさんあるが、それを解消するだけでは、現代の不安を解消することはできない、とする主張は私も首肯するところです。今人々の中心を捉えかけているのは、もはや「不足」ではなくて、「不安」である、という主張もうなずけます。さらに、航空機事故を含む事故の「責任追及」と「原因究明」は、異なる視点からなされなければならないと考える。

さて、第三部会では、6月9日、九州支部会議室 において定例研鑽を行い、金属部門 香月俊幸氏お よび同じく金属部門 宮田守次氏からご講演いただ いた。以下にその内容を紹介したい。

1. 講演タイトル:「環境技術(4)」 金属部門 香月 俊幸 氏

「RoHS指令」(2006年7月1日、EUで施行)と「REACH規則」(2007年6月、EUで施行)に関して、2007年3月、「中国版RoHS指令」が施行された。しかし、中国奥地の企業の実態はとても法規が守られている状況にはなく、例えばメッキ関連工場の廃液処理は、日本の実情と比べると格段の落差がある、との最近中国を訪問した講演者の印象。

「鉛フリーはんだ」開発に関して、"融点が高い" "濡れ性が劣る" "ウイスカーの発生 "などの課題について説明があった。特に、ウイスカーの発生現原因について、①圧縮応力、②金属間化合物生成による体積膨張などさまざまな要因による発生パターンがあり、製品検査段階で把握が困難とのこと。

2. 講演タイトル:「マグネシウム合金鍛造技術文献調査受託活動概要」金属部門 宮田 守次氏本件は、NEDO「マグネシウム鍛造部材技術開発プロジェクト」の一環として取り組んだもので、日本、イギリス、フランス、ドイツ語文献について調査を行った。現在、世界中で日本の研究がもっとも盛んで、論文発表も圧倒的に多いとのこと。

例として、高強度・高靭性マグネシウム合金開発において、SiCなどの添加による技術が研究されている。また、"温間鍛造技術"($200\sim400$ $^{\circ}$ での鍛造)および "潤滑技術"が重要課題。

第七部会活動報告 第七部会の活動状況

第七部会長 山田 伸雄 (建設・福岡)



このたび、前任の田辺会長を引き継ぎ、第7部会 長をさせていただくことになりました山田伸雄です。 よろしくお願いします。

九州支部第7部会は、技術士法の改正に伴い若年 技術者や修習技術者の急増が予想される中で、45歳 未満を対象として平成16年10月に発足した部会です。 規約では第7部会の目的を以下のように規定してい ます。

- ①会員の技術士としての資質向上、継続研鑽
- ②青年技術者の技術力向上
- ③技術士の地位向上
- ④技術士制度の普及促進
- ⑤修習技術者の指導
- ⑥技術士会への加入促進
- ⑦会員の社会的活躍の場を増やすため、異業種の 青年技術者の交流

こうした目的に沿って、現在は福岡青年技術士ネットワーク (注1) との共催で2ヶ月に1回の定例会、年1回の公開講演会を実施しており、定例会には毎回20名程度、公開講演会には60名程度の出席があります。最近では修習技術者や女性技術者の参加も増え、活気あふれる楽しい雰囲気の定例会となっています。

第7部会の特徴は言うまでもなく45歳未満の若い 技術者の集まりであることですが、さらに異なる分 野の技術者が集まる会でもあります。そこで、定例 会や講演会では年間テーマを設けて、様々な分野の 技術者が意識共有をできるように工夫しています。

平成18年度の年間テーマは「安全・安心な社会を築く技術」として、気象災害、耐震偽装問題、エレベーター事故、食の安全等について討論しました。平成19年度は「九州の産業・技術遺産」をテーマとして軍艦島や三池港の産業・技術遺産としての価値を語り合いました。また11月には「若き技術者たちよ、先達の声を聞け!」と題する産業・技術遺産の見学会を、12月の公開講演会ではユネスコ世界遺産登録についての講演を予定しています。

今後の課題は、各地区と連携した運営体制の確立

です。福岡・北九州地区だけでなく、佐賀、熊本、 大分、長崎、鹿児島、宮崎地区の若手技術者に運営 に参加していただき、施策検討や情報共有を行って いく必要があります。それにより、各地区で活躍す る若手技術者に対して的確な支援やサービス提供が 可能になると思います。今後とも各地区のご協力を お願いいたします。

また、技術士制度の普及促進、修習技術者の指導については、現状で有効な施策を実施できていません。これらについても部会の中で検討し、若い力でどんどんとアクションを起こしていきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

さて、全国に目を向けると、九州支部第7部会と 同じような組織は全国各支部にあり、年2回の全国 青年技術士交流会や年1回の日韓青年技術者交流会 が実施されています。九州は地理的に不利な条件に あるため、情報を取り逃さないように、予算の許す 限り積極的に参加しています。 私は部会活動を通して九州や全国の若手技術者と対話する機会が多くなりましたが、技術士会に関しては「会費に見合うメリットがない」という意見を非常に多く聞きます。ただし、言葉の意味は同じでも「メリット」は各個人の立場、年齢等で違っています。第7部会に所属する若手技術者の多くは企業内技術者であり、実務の中核を担う人材です。私はそうした若手技術者のニーズを捉え、若手技術者にとっての「メリット」が得られる企画の立案・実行、本支部への提言等を実施していくことが第7部会の目指すべき方向だと思っています。

まだ歩き出したばかりの第7部会ですが、より良い部会とするため、今後とも諸先輩方のご指導・ご 鞭撻をよろしくお願いいたします。

注1)福岡青年技術士ネットワーク:交流・情報交換・技術力向上を目的とする任意団体。メンバーは福岡近郊在住の50歳未満の技術士および修習技術者。平成4年設立。

ベトナム・小学校の 開校式に出席して

松原 好直 (上下水道·北九州)



「恵まれない子供に援助を!」を目的に、夫婦で 里親になり、ベトナムの子供2人に援助を行ってき た。今回、人生の節目となる結婚35周年と無事の年 満退職を記念して、「米百俵の精神」に基づき、ベト ナムに小学校を寄贈することを提案、約2年の月日 を要し完工、本日、開校式(2007年6月23日)を迎 えることができたので、その報告とベトナムの教育 環境を述べたい。

フータイン(HuuThanh)小学校は、ホーチミン (HO CHI MINH)市からタクシーで 2 時間のとこ ろにあり、周辺は緑豊かな田園地帯で、集落とク リークが点在している農村である。

開校式が挙行されたフータイン小学校は、ロンアン(LongAn)省フータイン村に建設された唯一の小学校である。

ベトナムの小学校は5年制で、ここの小学生は約6km離れた小学校に通学していたが、新学期からは、通学範囲は半減され、約200人がこの新しい小学校で学ぶことになる。

基盤整備が不足しているこの地方は、一般的に午前授業と午後授業の2部学級スタイルとなっており、1学級・平均50人が学んでいる。この地域は子供人口が急増中で、学校が不足しており、今後、この小学校も他地域の小学生を一部受け入れるように再編され、最大500人の小学生が学ぶ計画である。

建設された校舎は5教室で、地方の学校にしては、 珍しくガラス窓が設置され、また、地域の住民の集い(公民館的存在)に使用されるため、電灯設備と 暑さ対策用の天井扇風機、さらに両壁の上部に熱逃 がし用の吹き抜け、別棟に環境対策を考えた簡易式 水洗便所が設置されている。

各教室には、黒板が配置され、その中央上にホー おじさんの肖像があり、周囲は、さりげなく花や子 供の作品が飾ってあった。

机は4人掛け用の椅子と固定されており、1教室



松原夫妻と特待奨学生、左は里子のPHUONG

に12セットが設置されていた。

この時期、学校は夏休み中で、子供たちは家の手 伝いにいそがしく働いており、毎日を農作業や家畜 の世話を行っている。

開校式は、そのような条件下で、教師、生徒、その父母、さらに、党、郡(県相当)関係者、HCM市・ドンズー日本語学校のNGUYEN DUC HOE校長の、約200人が出席し挙行された。特に女性はアオザイを着用、華やいだ衣装が会場で目を引いた。

式は、党、郡、学校関係者の挨拶に始まり、校舎寄贈者の私たち夫婦はベトナムの子供たちの将来を期待するスピーチを実施。さらに、選抜された(*1)特待奨学生や奨学生に奨学金、小学生全員に文房具の授与等を行った。引き続きテープカットは、地元メディア(TV局、ラジオ局、新聞社)の注視の中、党、郡の代表、HOE校長、私達夫婦で行い、無事に式を終えた。特に、日舞師範の妻は和服(浴衣)で出席、そのめずらしさで注目度が抜群、スピーチ後に日本の「さくらさくら」を披露、さらに歌唱指導した。会場の雰囲気が和らぎ、子供たちや教師および出席者の皆様と親しくなり、身振り手振りのゼスチャーで会話し、教師、生徒、父母達と記念写真を撮影した。

この後、地元関係者・父母等による地酒、肉、野菜等を持ち寄っての歓迎パーティが楽しく挙行され、終了直後、雨季のスコールが、この開校式の挙行を待ってくれたように、大粒の雨が地面を濡らした。

今後、この小学校の運用は、ベトナムの関係者に 委ねられるが、機会をみつけ、定期的に、里親とし て、再び、里子とこの校舎を夫婦で訪ねたい。

【フータイン小学校の施設概要】

・校舎:5教室(連絡通路共)と便所

• 付属施設:井戸、電気施設

・用地:約6,400㎡(村で充当)

• 建設費:約7億VND(US50,000\$)

• 寄贈: 松原好直 • 美知子

・備考:校舎中央に、記念プレート

【追記】 里親として、応援していた 2 名の里子と HCM市で面会した。2 名とも、手紙と写真でそれなりの知識を得ていたが、面会は始めてであった。

①里子A(女性:22歳)は、OLとして、立派なお嬢 さんに成長していた。食事をする機会があり、感 慨深いものがあった。

②里子B(女性:19歳)は、里親を継続中で、優秀



フータイン(HuuThanh)小学校

な成績で高校を卒業し、今年、HCM工業大学繊維学科に入学、英語が得意な、まだ幼さが残る美しい女性に成長していた。面会後は、家族宅に招待され、夜は一族を含めての懇親会(食事)を行い、さらに、滞在中の一日は、この里子とメコンデルタの景勝地・ミトー観光を行った。

参考

【ベトナム子供基金】

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館内

• TEL: 03-3946-4121 • FAX: 03-3946-7599

• E-mail: kodomo.kikin@nifty.com

• HP: http://homepege3.nifty.com/vcf/

(ベトナム子供基金10周年記念事業)

・ベトナム黄梅基金・・1口1万円

・個別黄梅基金・・・・1口30万円以上

・学校建設黄梅基金・・個人またはグループで学校 建設と黄梅基金を併設

(ベトナム子供基金会員募集)

・里親基金・・年額1口2万円

一般基金・・年額1口1万2000円

・賛助基金・・一般基金に準じ、金額、回数等は自由 (2007年3月20日現在の会員と奨学生:里子)

•里親基金:208人(288口)、 一般基金:34人(36口)

・奨学生:413人 (ベトナム青葉奨学会の窓口)

新会員章(バッジ)の販売のお知らせ

新たに制定された本会のシンボルマークに基づく新会員章(バッジ)の販売が開始されましたので、ご案内いたします。

販売価格 3,000円

販売場所 九州支部事務局

販売方法 窓口販売と郵送販売

郵送の場合は、返信用封筒(配達記 録郵便料金330円分の切手を貼付) 及び郵便定額小為替(3,000円)を同

封して申し込む。

地域だより

福岡

福岡シニア技術士ネット ワーク(fspenet)に参加 してみませんか?

> 諸藤 元信 (建設、総合技術監理)



6年間の単身赴任生活(東京)を終えて平成17年 4月福岡に戻って参りました。九州管内の営業及び 施工支援を目的として九州出張所を開設し、親会社 より出向してその任に着いております。事務所は私 1人ですので、小口資金の入出金、郵便物受発信、 契約業務等の事務を戸惑いながらも何とかやって来 ました。普段、電話応対以外には誰とも話さない日 もありました。比較的自由な時間が取れますが、自 分の行動結果に責任を持つと言う意味では厳しいモ ノを感じておりました。そんな時、fspenet 例会へ の参加は私にとって精神的なオアシスになり大変あ りがたいものでした。YCE福岡(現fsgnet)の時代 から存じ上げている方々が多かった事も幸いでした。 fspenet 例会は 2ヶ月に1回原則として偶数月の 下旬の木曜日18時30分から九州支部会議室にて開かれております。1分間スピーチ(殆ど1分では済みませんが)、ノウフウ(know who)、ホットな話題で構成されています。色々な技術部門、職種、役職の方が話題提供されます。自分が知らない事また今まで誤解していた事項も有り、再認識再確認出来る場でも有ります。また、例会後の近くの居酒屋での飲みニュケーションでは、例会の延長や技術士会の事、親の介護や自分の健康の事、将来の事等が話題となります。お互い率直にその対応や考え方を話しますが、各人尊重の雰囲気が有りとても参考になりいつも元気をもらっています。福岡地区の皆さん、ひょいと気軽に立ち寄ってお顔をみせて下さい。fspenetではメーリングリストを通してEメールで様々なことをお尋ねしますと素早い回答が別の方か

ら寄せられます。 色々な活用の仕方 を模索中です。継 続参加は必ずお互 いの力になると信 じております。



佐賀

産官学・協働への 参画活動

NPO 法人技術交流フォーラム 広報委員 福島 裕充 (建 設)



佐賀県では、平成17年度に産(建設関連団体、NPO)官(佐賀県、財団法人)学(佐賀大学)による「品質確保検討会」が立ち上げられました。今年度に入り本格的に活動を開始しましたので、概要を報告します。

1. 目的

本検討会は社会資本整備の品質確保等の推進を図り、安全・安心で心豊かな地域づくりに貢献するため、次に掲げる事項について具体的かつ建設的な施策及びシステム(案)等を策定し関連機関に提案することを目的としています。

- ①社会資本の維持・管理・更新 (AM)
- ②トータルクオリティシステム (TQM) 構築

- ③委託業務特記仕様書の検討
- ④その他、社会資本整備の品質確保等の促進

2. 具体的活動内容

上記目的を達成するために運営組織内に3つの分科会(第1~第3)を置きそれぞれ①~③を担当しています。

- ・第1分科会:主にアセットマネジメント (AM) を担当し、今年度は橋梁・舗装等について AM 採 用時の効果を算定して実施の提言をする計画です。
- ・第2分科会: TQM のうち、①照査・検査システムの稼働、②三者調整会議への対応検討、③技術相談室の開設、を今年度の主要活動に位置付け取り組みを開始しました。
- ・第3分科会:発注機関の特記仕様書に不備等があるため、受注機関との間に契約関係の認識相違が発生しています。そこで、今年度は既存特記仕様書を紐解きレベルアップした特記仕様書のサンプルを作成提示する計画です。
- 3. NPO 技術交流フォーラム (技術士) の参画 本検討会は28名の会員により構成されており、その中の11名が当フォーラムから技術士の立場で参画して各分科会の舵取り役を担っております。 まだまだ始まったばかりでこれからが本番、地域のために微力ながら貢献したいものです。

北九州

北九州地区技術士会 の活動状況

幹事 寺師 政廣 (上下水道)



北九州地区技術士会では、毎月第3土曜日13時から17時まで、戸畑生涯学習センターにて、月例技術研修会を開催しています。最近の活動状況について報告いたします。

1) 研修会の進め方

研修会は技術報告(50分)2題、卓話(30分)1 題を基本としています。平成16年から、県外の技術 士や異業種の方にも参加していただき、積極的に技 術交流を行っています。今年は、年始めから多数の 技術講演(19年1~3月)をいただきましたので、 紹介いたします(4月以降省略)。

- ①「物流機器 (トラック) の知能化」平成19年1月 市原修身氏 (丸和技研・技術営業グループ部長)
- ②「特許セミナー(企業経営に特許情報を活かそう)」平成19年2月

浦井正章氏(北九州知的所有権センター)

- ③「ガスケットを使用しないフランジの開発」平成19年2月 野田尚昭氏(九州工業大学教授)
- ④「わが国のエネルギー情勢と電源のベストミックス①」平成19年3月

高橋 明氏(東京電力㈱技術部長)

- 2) 技術士業務の開発状況
- ① 国際溶射会議 ITSC 2007で論文賞を受賞

国際溶射会議2007(平成19年5月14日~17日、北京)で、坂田一則氏(金属・総合技術監理)の「コバルト基自溶合金の加熱拡散処理によるミクロ組織制御」に関する研究が論文賞を受賞されました。表彰論文は、発表論文241件中13件のみという狭き門でした。

② 「土壌汚染対策研究会」から「環境負荷低減の検証研究会」へ

「土壌汚染対策研究会」は、平成18年度後期から日本技術士会プロジェクトチーム「環境負荷低減の検証研究会」として、再スタートしました。この研究会では、環境負荷の低減を検証していく対象を「土壌汚染調査」、「中小企業の温室効果ガス削減」、「環境報告書」とし、第三者検証する仕組みを構築することで、環境コミュニケーションのツールとして機能を高めていきます。

長崎

長崎地区活動概要

地区広報委員 桐原 敏 (建 設)



7月11日に、32名が出席して長崎県技術士会の平成19年度総会及び研修会を開催し、以下の通り事業計画等が承認されました。尚、長崎県技術士会長には犬東洋志氏が留任され新役員も決定しました。

1. 平成19年度事業計画概要(研修会等)

- 研修会(7月)
- ・島原・長崎・佐世保地区開催の研修会(9、2月)
- •「ながさき建設フェア2007」後援(9月)
- ・テクニカルツアー(11月頃)
- NPO 法人技術フォーラム技術懇話会協賛(11月)
- その他支部、研究会主催の研修会参加

2. 九州支部関係役員

地区代表幹事・大橋 義美(九州支部副会長)

幹事・山口 和登、広報委員・桐原 敏 IT 委員・大橋 義美

3. 研修会(7月11日総会時に開催)

○「我が国に於ける PFI の動向等」 (㈱長大 宮崎圭生氏(総監、水道・下水道部門) 民間主導の公共事業である PFI について、その手 法、導入のメリット、事業に当っての原則・主義、 発案事例および今後の事業展開等について。

○「船の事故と規制と設計について」 (株大島造船所 森茂博氏

世界的な船の事故例とこれに伴う船の構造設計の規制に関する世界基準の見直し・変遷について。

4. その他

長崎県技術士会は現在会員104名ですが、今後、会員数の増強を図るため、同会の活性化対策として、ホームページの充実と活用促進、年4回発行の機関紙発行と内容の充実、メール等による連絡網の充実や各個人HPによる相互情報交換、県内の各種技術機関との積極的な連携を図りながら、会員の一層の資質向上を目指して行きたいと思います。

声の広場

Ι

視界不良



(衛生工学、環境、総合技術監理・宮崎)



日本国民のこの夏の最大関心事のひとつは、間違いなく参議院選挙であった。選挙戦の最大争点は、安倍内閣閣僚の相次ぐ舌禍、国民のだれでもが自分の年金もそうではないかと感じさせた5000万件の不明年金問題であった。結果は皆さんご承知のとおりである。

さてその選挙戦の最中、環境を専門とする技術士 である小生は、日々鬱々として通勤し、仕事中に空 を仰いでいた。

南九州にお住まいの方々は気付かれただろうか、7月下旬から8月上旬にかけて大気が濁ったようになり、いつも見えている10km 先の山が殆ど見えなかったことを。

小生は、父祖の地が薩摩半島南端にあることから、ほぼ毎月1回以上宮崎と父祖の地の往復400kmを運転している。その区間、いずこも同じ大気の濁り具合であった。

環境省の「そらまめ君」で見てみると、南九州の浮遊粒子濃度がいつもより高く、しかも昼夜の変動があまりないという不思議な状況であった。もちろん光化学スモッグが高くなったときのような注意報が出たのでもなかったのだが、7月下旬から8月上旬の間の視界不良は、まことに不愉快なものであった。

さらに不愉快にさせたのは、このような目で見て わかる状況を殆どの人々が認識していないことで あった。それは報道機関でも同様であったし、もっ とも良く気づくだろうと考えられるカメラマンでも そうであった。

7月14日に台風 4号が大隈半島に上陸し、夕方には日向灘沖を通過したのだが、その後24時間ほどはいつもの綺麗な空気であった。

たまたま、15日は鹿児島空港までミャンマーから 鹿児島に来ていたミャンマー(ビルマ)の尼僧、僧 侶達23名を見送りに行った。小生とミャンマーに学 校つくりをしている活動の中心である、友人の僧侶 のお寺にミャンマー式のパゴダ建設の着工式に来た 方々である。その行き帰りの空気は、いつもの綺麗 な南九州の空気であったが、翌16日は視界不良に なっていた。 このような状態が8月に入っても続いていた。8月5日の技術士二次試験受験のために、前日4日福岡・北九州へと行ったのだが、熊本を過ぎて北上するとともに視界良好となって行った。さらに北部九州はきれいな空気であった。これも又小生の陰鬱さを増すものであった。

南九州全体、都市部といわず山間部から海岸域まで、数kmの視界しかない原因はなんであったろうか。ちょうどこのころ台風が来たとき以外は、東シナ海に高気圧があり、その縁が中国上海付近から南九州にあった。高気圧の縁を廻る空気の流れは、時計まわりとなるのだが、そのこととの関連を考えていた。

その8月5日の技術士二次試験は、この数年の技術士試験制度変更の最後となるものであった。

平成12年度までの筆記試験は、一日で12000字を書くものであった。それが5400字である。

かつて、小生達の学生時代の工学部は、卒業までの4年間で必要単位は170単位であった。詰め込み批判があり、必要単位を減少していった結果、今は119単位と40年前の7割の量である。

技術士試験も記述士であるとの批判があり、制度変更を繰り返し、大学が40年で変わったことを、5年で変えたようだ。一日での記述量は5割以下となった。

高校生や大学生の二十歳前後の勉学は、何一つ無駄になることはない。大いに学ばせる環境を構築すべきである。であるにも拘らず、負担を軽くすることは、学ばなくても良いと言っているに等しい。技術士試験はそうでないことを願うばかりである。

様々な国に行く機会のある小生は、国の教育、産業等政策の違いで国民生活が大きく変わることを肌で感じている。

さしたる資源のないわが国では、技術者の質が確保されて、開ける地平もある。厳然たる事実として世界は弱肉強食であり、わが国の生きる方向は、今後とも技術を活かした方向でしかないと考える。そうであればこそ、今後厳しくなるであろう、中国、インド等との競争に打ち勝てる。

そのような中で、技術士の果たす役割は大きなも のがある。

この夏の大気の汚染のような、すぐ目の前で明らかに起きている異常があっても、結局見えないこの国の人々のありように、現実の視界不良以上に、この国の行く末の視界不良を思い、鬱々たるこの夏であった。

((財) 宮崎県環境科学協会 企画管理部長)

 $|\Pi|$

技術さまざま

術士会 冷川 久敏 (水産、総合技術監理・大分)



私たちは「技術士」として自他共に認めており、 認められている。

しかし、「技術」とは何であろうか。広辞苑によれば、「技術」とは、1,物事をたくみに行うわざ。 技巧・技芸 2,科学を実地応用して自然の物事を改変・加工し、人間生活に役立てるわざ、とある。 技術士の場合は、2項がより近いと思われる。

私が長年携わってきた「建設関連部門」の中からこの「技術のあり方」を解釈してみると、一つの公共施設を完成させるまでには、計画・調査設計・施工のプロセスがある。

私は以前「技術士だより」に、この3段階のプロ セスを「創・造・作」として駄文を書いた。それは、 例えば、A市からB市までバイパスを建設するとし た場合、「創」の計画は、官公庁・公団等の官又は、 これに近い団体が、ペーパー上に2次元の計画を立 て、これを、コンサルタントや調査会社に発注する。 受註した企業は、「創」の時点での目的や条件に基づ き調査を行い、設計を行う。この段階を「造」とす れば、「創」と同じくペーパー上であっても、その目 的物(道路)は3次元の施工が可能な形にまで、設 計、積算され完成時の姿を具体的にイメージ出来る こととなる。「作」の段階になれば、建設会社が 「創」の目的や条件、「造」の設計と地域住民の民意 等に合致するように、現地に道路の形や必要な構造 物を建設し、利用できる具体的な3次元の世界が展 開する。

ここでは、「創・造・作」における技術のあり方ではなく、同じ公共施設の建設に関わる技術者で有っても、官公庁やコンサルタント、委員会、建設会社等によって基本的に異なる考え方や技術が根底にあることを端的に記する。

1、研究的・学術的技術の傾向

- ① 細部を深く突っ込んで考えるために、視野が狭い傾向がある。
- ② 理想的なものを求めるために予算・採算は度外視することもある。
- ③ 周りの様々な情勢や環境は考慮せずに、その 対象物に対して理想的な事を考え、理想的な ものをつくろうとする。
- ④ また、気楽に地域住民の意向や極端な自然環境の保護に走る場合がある。

2、営利的技術(コンサルタント・建設会社等)の傾向

- ① まず利益を考える。こうした方が良いと解っていても赤字を出してまで実行はしない。
- ② 受注額の中で、どこでそつなく目的を達する

- ことが出来るのか妥協点を見極める感(技術)が必要。
- ③ 発注者等の条件・要望は出来るだけ最小限に (完成検査をクリヤーすればよい)満たす方 法を考える。

3、行政的技術の傾向

- ① 常に予算枠の中での解決を求められるために、 住民の要望や現場での変更等は、予算内でそ の場を旨くクリヤーする技術が必要とされる。
- ② 理想は解っており、そうすることがベターであると思っていても、なかなか実現出来ない ジレンマがある。
- ③ しかし、利益を考える必要はないので、有る 程度の贅沢な(時には不必要な)無駄遣いを することがある。
- ④ 研究的技術の理想と営利的技術の効率性を合わせて、予算に合致する効果的なものを見極めて創る技術も必要。

以上、三者三様の立場から、同じものを対象として も、その視点や目指すところは大きく異なる。

かつて、私が官公庁に勤務していたときに「○○ 委員会」なるものに幾つか関わったが、一つの対象 (例えば港湾・公園・まちつくり等々)に対して委 員それぞれの立場が違っていれば考え方も大きく異 なっていて、中には自分の意見に固執してなかなか 妥協されない方がある。このタイプは学術的な技術 者に多い傾向がある。

こういう方を委員長にすると、中には、一人で委員全員と渡り合う強者もいて、委員会の結論が1年ではまとまらず、泣く泣く付いた予算を返上しなければならなくなった事もあったが、施設の完成を待ち望んでいる地元住民にはやりきれない年月である。

このような方とは対照的なのが、何でも「はい、 はい」妥協するコンサルタントの技術者で、自分の 考えを述べれば仕事が増えると思っているらしく、 意見を求められても態勢を制しそうな意見に「ヨイ ショ」する事が上手い技術者もいる。

このような経験の中から、私は、3タイプの技術の他に、第4の技術があっても良いのではないか、と、この頃考えている。この第4の技術者が我々「技術士」ではなかろうか。

官公庁の立場も、研究所や学術的な立場も、営利的な立場も理解した上に、地域住民の立場も理解して、妥当な予算で、妥当な価格で、より理想に近く、多様化する地元住民の要望も出来るだけ受け入れ、地域性に合致した公共施設(社会資本)を各部門・専門の技術士の協力で実現できないだろうか。

この頃は、技術士を始め技術資格者の適否や勉強不足、利用のあり方等々について、マスコミや学術誌・機関誌等に取り上げられているが、我々技術士に関して言えば、光岡支部長も指摘されていたように「男は黙って酒を飲む」時代ではなく、技術士の存在を広く世間にアッピールし存在感を示し、「頼れる技術士」になることが、組織の強化や技術士の評価の向上に繋がると、私は考えています。

技術情報

福岡市域の

激甚災害の取組

〜県の御笠川洪水予報 実施について〜



梁木 英寿

(建設、水道、総合技術監理・福岡)

1. はじめに

福岡市は、平成11年と15年に博多駅が浸水した都市型水害を2度経験している。

そこで、河川激甚災害対策特別緊急事業による河川改修と共に、様々な情報伝達の取組もなされている。その一つとして、県による特定河川区間の洪水予報を、気象台と共にマスコミ等にも流し、地震や大雨と共にテレビ等のテロップに、河川はん濫警報等が流れることとなった。

2. 洪水予報情報の概要

平成13年6月水防法の改正に伴い、都道府県知事による洪水予報の実施が可能となった。(水防法第10条の2) そこで、都市型水害で被害を受けた、資産集積地の博多駅を含めた御笠川下流域を対象とし、県が洪水予報を流すものである。今後、福岡県は那珂川等の他の河川へも広げていく予定で、その準備中である。



図1 御笠川流域図と予報区間

3. 洪水予報作業について

流される情報は、洪水の危険があるときに、「はん

濫注意水位」突破の40分前に出す「はん濫注意情報」と、「はん濫危険水位」突破の1時間半前に出す「はん濫警戒情報」が出される。

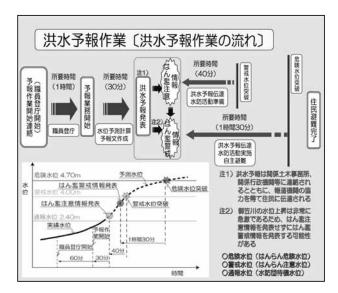


図2 洪水情報発表と突破水位の時間差

4. 洪水時の水位名変更と危険レベル

洪水時に予報される水位と名称は図4の通りであ り、これ迄の呼び名が一部変更されている。

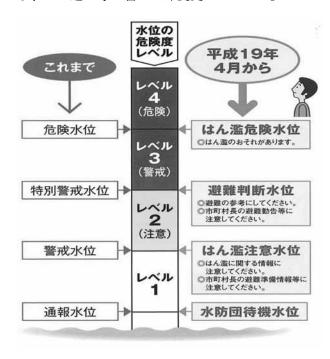


図3 河川水位情報(水位の名称)の変更

(福岡市下水道局河川部激甚災害事業調整担当)

身近な話

参加したCPD研修の 中の環境に関して

山下 恒雄 (建設、農業・佐賀)



最近は技術士として研修のために講演会等に参加することが多くなってきました。私が参加している講演会等は専門分野では、軟弱地盤研究会、技術士会九州支部佐賀地区のCPD研修会、佐賀大学の有明海総合研究プロジェクト成果発表会などがあります。一方、市民レベルで生涯学習会としての講演会等は、佐賀市教育委員会のさが学モデル講座、佐賀県立生涯学習センターが各著名人を講師として行われるものなどがあり、できるだけ参加するように心がけています。

私が参加した講演会の中で関心がある課題が環境に関するものです。環境といっても広範囲に亘っておりますが、今年の夏のように猛暑が続くと、地球温暖化に関心が集まります。

環境省九州地方環境事務所による「環境・循環型 社会白書を読む会」が開催されました。また、造園 家の涌井雅之氏の「景観10年、風景100年、風土1000 年」の講演会にも参加しました。どちらの話しにも 地球温暖化が取り上げられました。

この課題については多くの人が理解されていますが、これに対してどのような行動を起こしているかとなると心細いものがあります。しかし、白書に提案された、①エアコンを28度で温度調節を行う、②エコ商品を意識して購入する、③水道量を減らす、④買い物はマイバッグで、余分なものを買わない、⑤自動車使用を減らす、⑥不要な電気を減らす、は行動可能だと思います。

涌井氏の提案があった「自然を有限の資源と考え、 私達も自然の一員であることを認めたうえで自然に 対して過度な負荷を与えないようし、自然の持つ物 質エネルギーの循環システムを維持する」を考えさ せられる。このような循環システムが崩壊すると地 球温暖化が進むので、我々が地球に負荷を与えない ような生活を行うよう行動したい。

修習技術者の声

目標を持って

大城武司(建設・熊本)



1962年 私は高校を卒業して、この業界に入った。 当時の我が社は測量会社であった為、測量士の資格 を取得する必要があり、合格率3~5%の難関に挑 戦することになった。

当時は測量専門学校もなく国家試験に合格する以外には方法がなかった。試験は、1次試験、2次試験があり、2回目の受験で晴れて測量士となることができた。

1984年、当社は建設・補償コンサルタントとして登録することになり、測量以外にも設計・用地等の業務が加わり、測量士以外にも他の資格が必要になった。当初の私の目標は測量技術を身につけ立派な一人前の技術者になることであったが、コンサルタントとしての必要な資格も取得する必要が生じた。そこで、設計に必要な資格で今後は下水道が普及

されるのでないかと思い、下水道2種の資格、その後、1級施工管理士の資格に挑戦し、無事合格をすることができた。

1985年、技術士補制度ができ、私は翌年技術士補に挑戦をして、合格をすることができた。

この2~3年は、資格取得に追われる年であった。 会社の組織上、私は測量調査部に所属しながら、設 計部員の資格取得のための技術指導もすることに なった。

1991年、技術士のミニ版としてRCCM技術管理者の資格が新たにでき、私としては、技術士取得の前に、RCCM技術管理者の資格も取得した。

現在は「修習技術者」として、主として新幹線熊本車両基地建設の総合的な概略設計業務に従事している。この基地は、国道3号と鹿児島本線とに挟まれた幅200m、延長1,500mの車両基地であり、この計画地には、町道、農道、用水路等、数多くの既設工作物があり、これらは全て活用されていることから、機能を保全しながら付け替えることになった。この中で特に苦心したのは、町道の付け替えであった。国道3号を起点に横断的に車両基地の下をアン

ダーパスか跨線橋で基地内を通過させるかであった。 検討に検討を重ね関係機関と何十回となく協議した 結果、アンダーパス1箇所・跨線橋2箇所で関係機 関と調整ができた。

この車両基地は、町のほぼ中央に位置して、その面積も30~クタールに及ぶことから、町を2分割しかねない重要な案件であったため事業主体・国交省・県・県警・町当局等の関係機関は、それぞれの立場に立って熱心に討議され、建設的な意見が交換されたが、意見が交錯して成果を得るまでには、相

当な日時を要した。

私も設計者である建設コンサルタントの代表として、技術的経験と知識を最大限に活かして、存在価値のあるアドバイザーとして努めたつもりであったが、問題点が広範に及ぶこともあって、即答しかねる事案も出て、日頃の不勉強を反省することもあった。

私はこの貴重な経験を勉強の好機として捉え、今後とも技術的な生涯学習を心に刻みながら、努力を 続けたいと思っている。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会 〈平成19年5月〉

(所在地)(区分) (氏名) (部門) (勤務先) 福岡 正会員 坂木 久住 機 械:西部電気㈱精密機械事業部 生産部 長崎 正会員 林 慎之 機 械:三菱重工業㈱長崎研究所トラ

宮崎 正会員 請関 誠 建 設:飛島建設㈱九州支店土木部 正会員 江口 勝 建 設:精工コンサルタント技術部 佐賀 篤昭 福岡 正会員 ΠП 建 設:日本工営㈱福岡支店技術部 設:東亜建設技術㈱技術部設計 福岡 正会員 澤田 誠司 建 チーム

長崎 正会員 園村 幸紀 建 設:NTTインフラネット(㈱長崎 支店

福岡 正会員 田代 幸英 建 設:九州電力㈱土木部土木計画・ 総合技術 建設グループ

鹿児島 正会員 竜野 三生 建 設:新和技術コンサルタント(㈱営 業部

熊本 正会員 栃原 豊秋 建 設:佐藤工業㈱九州支店土木事業 部土木部

福岡 正会員 中元 光一 建 設:㈱協和コンサルタンツ九州支 総合技術 社技術統括部

佐賀 正会員 永岩 敦史 建 設:九州水工設計(株)技術部

福岡 正会員 西青木由紀 建 設:セントラルコンサルタント(株) 九州支店技術部

福岡 正会員 野田 健二 建 設:エイコー・コンサルタンツ㈱ 設計部

福岡 正会員 三木 甫 建 設:㈱山九ロードエンジニアリン グ技術部

鹿児島 正会員 宮川 央輝 建 設:中央テクノ㈱

大分 正会員 宮崎 辰彦 建 設:㈱サザンテック技術部 総合技術

福岡 正会員 宮路 義一 建 設:エヌ・ティ・ティ・インフラ 総合技術 ネット㈱九州支店

福岡 正会員 山本 洋一 建 設:㈱福山コンサルタント

福岡 正会員 橋本 恭彦 上下水道:JFEエンジニアリング(㈱)水シ ステム営業部

宮崎 正会員 渡邊隆一郎 上下水道:玉野総合コンサルタント(㈱宮 崎事務所

鹿児島 正会員 宮川 央輝 農 業:中央テクノ㈱

環境

熊本 準会員 城戸 昭洋 建 設:㈱有明測量開発社玉名支社設 計部

鹿児島 準会員 水元 繁樹 建 設:

佐賀 準会員 久光 恵 農 業:日化エンジニアリング(㈱岡山

事務所技術部

〈平成19年6月〉

(所在地)(区分) (氏名) (部門) (勤務先)

長崎 正会員 水谷 勝嗣 機 械:水谷エンジニアリングサービ ス

長崎 正会員 南浦 純一 機 械:三菱重工業㈱長崎研究所船舶 海洋研究室

福岡 正会員 荒川 直樹 建 設:()()河川情報センター福岡セン

福岡 正会員 高向 正典 建 設:

総合技術

福岡 正会員 永本 鍾 建 設:㈱東豊開発コンサルタント

福岡 正会員 棗田 哲義 建 設:パシフィックコンサルタンツ (㈱九州支社

鹿児島 正会員 新山 庄一 建 設:朝日開発コンサルタンツ(株)

熊本 正会員 能田 清隆 建 設:㈱哲建設土木部

福岡 正会員 馬場 信吾 建 設:八千代エンジニアリング(㈱九 総合技術 州支店

福岡 正会員 深見 一男 建 設:オリエンタル建設㈱福岡支店

営業部

福岡 正会員 福嶋 泰彦 建 設:㈱五省コンサルタント

〈平成19年7月〉

(所在地)(区分) (氏名) (部門) (勤務先)

福岡 正会員 河瀬 日吉 建 設:八千代エンジニアリング(㈱九 総合技術 州支店道路・構造部

熊本 正会員 坂口 信夫 建 設:玉名市建設部

総合技術

福岡 正会員 塚本 義孝 建 設:福岡県建築都市部

福岡 正会員 福田 直三 建 設:復建調査設計(㈱福岡支社

福岡 正会員 小田 護 上下水道:侚アサヒクラフトエンジニア

福岡 正会員 岩下 任氏 農 業:三幸設計(株)

鹿児島 正会員 久保 章 農 業:㈱サタコンサルタンツ

佐賀 正会員 中村 典義 農 業:佐賀県果樹試験場品種開発研

究担当係

熊本 準会員 岩本 征士 生物工学:働化学及血清療法研究所第一

製造部

御協力いただいている 賛助会員

〔福岡〕	㈱構造技術センター九州支社	大洋測量設計㈱
日本総合コンサルタント㈱九州支店	いであ㈱九州支店	西日本コンサルタント㈱
㈱建設環境研究所福岡支店	大和コンサル㈱	東洋測量設計㈱
㈱唯設計事務所	(北九州)	九建設計㈱
中央開発㈱九州支社	日本航測㈱	日進コンサルタント㈱
㈱ダイヤコンサルタント九州支社	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
日本工営㈱福岡支店	九和設計㈱	〔宮崎〕
第一復建㈱	㈱都市開発コンサルタント	㈱弓場水工コンサルタント
㈱松本組	㈱松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
㈱エスケイエンジニアリング	㈱酒見設計	(株)ケイディエム
㈱福山コンサルタント	㈱太平設計	㈱親協
㈱東京建設コンサルタント九州支店	環境テクノス㈱	南日本総合コンサルタント㈱
東邦地下工機㈱	(佐賀)	㈱宮崎産業開発
大成ジオテック(株)	新九州測量設計㈱	㈱西田技術開発コンサルタント
富洋設計㈱九州支社	西日本総合コンサルタント(株)	旬福島測量設計調査事務所
(株)サンコンサル	日本建設技術㈱	九州工営㈱
㈱橋梁コンサルタント福岡支社	㈱九州構造設計	正栄技術コンサルタント(株)
㈱アイ・エヌ・エー九州支社	新栄地研㈱	(株)東九州コンサルタント
㈱九州地質コンサルタント	〔長崎〕	日測コンサルタント(株)
㈱タイヨー設計	大栄開発㈱	(株)ダイワコンサルタント
日鉄鉱コンサルタント㈱九州支店	㈱実光測量設計	(株)白浜測量設計
㈱大建	西日本菱重興産㈱	南興測量設計㈱
新地研工業㈱	太洋技研㈱	(株)アップス
(株)カミナガ	㈱新栄設計事務所	㈱国土開発コンサルタント
平和測量設計㈱	扇精光㈱	㈱都城技建コンサルタント
㈱高崎総合コンサルタント	〔熊本〕	〔鹿児島〕
西日本コントラクト(株)	㈱九州開発エンジニアリング	中央テクノ㈱
西鉄シーイーコンサルタント㈱	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ㈱
日本地研㈱	(大分)	(株)久永コンサルタント
第一設計(株)	松本技術コンサルタント㈱	コーアツ工業(株)
九州環境技術研究所	協同エンジニアリング㈱	大協㈱
西日本技術開発㈱	(株)日建コンサルタント	㈱建設技術コンサルタンツ

九州特殊土木㈱

㈱富士ピーエス

平成19年度 第3回 九州支部 CPD のご案内

日時 平成19年10月27日(土) 10:00~17:00

場所 福岡商工会議所ビル (〒812-8505福岡市博多 区博多駅前 2-9-28 Tel: 092-441-1110)

演題と講師

①【演題:ICT(情報通信技術)と社会生活】 跡部康秀氏(福岡市総務企画局情報化推進室)

②【演題:開発論(未来を拓く新製品開発】

柳 謙一氏(九州大学産学連携センター客員教授)

③【演題:二重回転羽根車による水力発電及び風力 発電に関する新技術】

金元敏明氏 (九州工業大学工学部)

④【演題:地域環境力と科学的知見】

食・飲料等は各自負担。)

小野 仁氏 (㈱)アーバンデザインコンサルタント 取締役)

参加費(資料代):1人3,000円(当日徴収。なお、昼

参加申込先:(社) 日本技術士会九州支部 (CPD委員

会)、FAX: 092-432-4443

申込期限:10月23日(火)

会誌"技術士"最近の主要目次

[PE] 技術士 7 · 2007

- ・地域と中小企業に届く産学官連携/後藤芳一
- ・企業不祥事と技術者倫理/木村正彦
- IT 経営におけるエンタープライズ アーキテク チャ導入の方法/則包直樹・榎本博康
- 自然の生態系を利用した持続可能な水質浄化シス テム/生地正人
- •「命の森づくり-秋田から世界へ-」宮脇 昭 国際生態学センター長の講演を聞いて/伊藤誉志広
- •「技術士業務報酬の手引き」の改訂について/ 報酬委員会

「PE] 技術士8・2007

- 会長就任挨拶/高橋 修
- 会長退任挨拶/都丸徳治
- ・新役員の紹介
- ・技術士の社会的地位向上に資する技術者倫理/ 打田憲生
- •ソフトウェア工学から見た生命科学と遺伝子治療 /石井一夫
- ・スマトラ島沖地震による津波被害と教訓/山下祐一 [PE] 技術士9・2007
- 未来エネルギー技術開発のリスク回避と国際協調 /桂井 誠
- 技術士の倫理綱領は市民と技術士で合意すべきで は?/田中秀和
- 芳香族工業における防災 安全分野の取組みと技 術継承/関谷正明
- デジタルテレビを巡る話題/室井謙三
- •「中小企業経営者が技術士に期待するところ」 上野 保氏の講演を聞いて/加藤豊
- 第26回地域産学官と技術士合同セミナー(新潟) /伊藤俊方

編集後記

今年の夏は例年になく暑い日が続き、各地で史上 最高の温度を記録しました。最近では、地球温暖化 の現象が肌で感じられるようになり、確実に地球全 体があともどりがきかない状況にむかっていること を日常生活の中で実感するようになりました。

私達技術士もそれぞれの分野で環境への負荷を軽 減し、次世代によりよい環境を引き継いでいくため に、創意工夫し提案、実行していく責務があります。

それから前回号でご案内しましたように、(社)日 本技術士会のマークが新しくなりましたので、「技 術士だより」も本号より新しいマークを表紙に掲載 することにいたしました。

新会員章(バッジ)も新しくなり、販売されるこ とになりましたので、ご利用下さい。 (棚町)

発 行:紐日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1 (シック博多駅前ビル204)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページ URL:

http://homepage2.nifty.com/pekyushu/

センター: **お** / FAX(092)432-4443

印刷:㈱川島弘文社